

顔が見えるとは、 育ての親が見えること。

私たち株式会社シフラは、日本全国の優れた生産者が参加する生鮮食品のブランド「顔が見える食品。」を開発し、運営を支援しています。本日は、そのうちのひとつ、「顔が見えるお肉。」についてお話しさせていただきます。

実は、「顔が見える食品。」誕生のきっかけは、BSE事件や牛肉偽装事件などが相次ぎ、食への不安が大きくなったこと。まさに「育ての親」が見えなくなり、その責任が放棄されたような出来事でした。「誰が育てたのか？」「どんなこだわりを持って育てたのか？」。私たちは、それを伝えることが食への信頼につながることを考えました。

上の写真は、「顔が見えるお肉。」の代表的な生産者のひとり、岩手県遠野市で「いわて遠野牛」を育てる佐々木学さん。遠野で生まれ育ち、幼いころから動物が好きで高校卒業後から牛の飼育に携わってきました。佐々木さんの牛を飼育する様は、まるでわが子を育てるよう。「自分がやらなければ」と親としての責任を強く持ち、大切に育てていることがわかります。

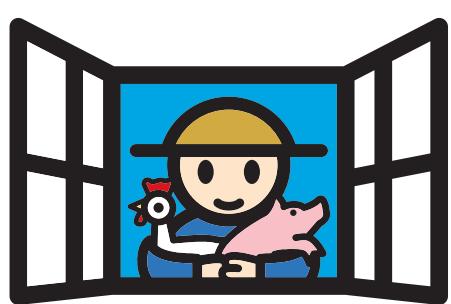
独自のハイレベルな基準をクリアした生産者だけが参加できる仕組みをつくり、「日本を代表する生産者が集まった特別なブランド」を目指して、20年以上、「顔が見える食品。」の取り組みを続けてきました。「顔が見えるお肉。」で言えば、佐々木さんはもちろん、奥州ハブ育ち鶏「を育てる刈間澤孝博さん」「瑞穂牛」を育てる下山一郎さん、「北国四元豚」を育てる柴田英二さんをはじめ、たくさん素晴らしい「育ての親」がこのブランドに参加してくださっています。

「育ての親」がいます。誰が育てたか。それはつまり、どんな環境で、どんな餌で、どのくらい大事に育てられたかということ。生産者の生きものに対する愛情、こだわりや情熱、誠実さこそが、お肉の品質を決めるのだと思います。

佐々木さんは持続可能性への意識も高く、JGAP（食品の安全、環境の保全などのルールを遵守し、サステナブルな経営を行うための生産工程管理の認証）も取得しました。また、地元を大切にしたいという想いも強く、遠野産の飼料米を餌に配合したり、副産物の堆肥を良質な肥料として地元農家に提供したりしています。

佐々木さんは持続可能性への意識も高く、JGAP（食品の安全、環境の保全などのルールを遵守し、サステナブルな経営を行うための生産工程管理の認証）も取得しました。また、地元を大切にしたいという想いも強く、遠野産の飼料米

私たちシフラの理念は「日本の農と食を守る」こと。優れた生産者とお客様を「顔が見える関係」にしていくことで、この理念を実現していこうと考えています。



顔が見えるお肉。

「顔が見えるお肉。」は、イトーヨーカドー、ヨークフーズ・ヨークマートの各店舗でお買い求めいただけます。
※一部店舗ではお取り扱いがない場合がございます。

日本の生産地・生産者を感じるカレンダー「育む人」2025年版を制作しました。詳しくはこちらから。



日本の農と食を守る

cifra